

〈中学校〉平成30年度全国学力・学習状況調査に係る結果

飯綱町教育委員会

1 全国学力・学習状況調査の目的

- (1) 文部科学大臣は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育の結果を検証し、改善を図るために、平成30年4月17日、中学校3学年を対象に本調査を実施しました。
- (2) 飯綱町教育委員会、学校は、自らの教育の結果を把握し、指導の改善に向け有効に活用するために、本調査に参加しました。ただし、本調査により測定できる学力は、学力の一部であり、学校が教育活動全体で育てている学力は、これ以外にも多くあります。

2 飯綱町教育委員会としての方針

- (1) 飯綱町教育委員会は、学力及び生活実態等について、結果の分析を行い、町全体の傾向を文書表現でまとめて公表することにより、保護者等に本町の実態を理解していただきます。
※ 数値の公表は、学校序列化や過度の競争を招く恐れがあり、この本来の調査の目的にそぐわないので行いません。
- (2) 飯綱町教育委員会は、分析結果を今後の教育施策・事業等に反映していきます。

3 調査問題の趣旨・内容

- (1) 国語A、B、数学A、B、理科

※Aは知識、Bは活用に関する問題を出題。理科は知識を主として活用の問題も一体的に出題。

A (知識)

生徒が身に付けておかなければ、以後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを問う問題で構成されています。

B (活用)

知識(A問題)を、実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力などを問う問題で構成されています。

- (2) 質問紙調査

学校や家庭での学習や生活実態等について、生徒が、いくつかの選択肢の中から選んで答える問題で構成されています。

4 飯綱町立小学校参加児童数

国 語		数 学		理 科	質問紙調査
A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)		
74人	74人	74人	74人	74人	74人

5 飯綱町の状況

調査内容	町全体の 平均正答率	考 察 (領域別平均正答率から 成果や課題)
国語 A (全 3 2 問)	全国平均よりやや高い	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のすべての項目で、全国平均を上回りました。場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解すること、段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てることは身につけています。伝えたい事実や事柄が相手にわかりやすく伝わるように書くこと、目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くこと、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことに課題が見られます。
国語 B (全 9 問)	全国平均より高い	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のすべての項目で、全国平均を上回りました。全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すこと、登場人物の言動の意味などを考え内容の理解に役立てること、相手に的確に伝わるようにあらすじを捉えて書くことなど、他との関わりの中で国語の力を問う問題は全国平均より高い正答率です。文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えることに課題がみられます。
数学 A (全 3 6 問)	全国平均よりやや高い	「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての項目で、全国平均を上回りました。「図形」は全国、県の正答率に比べても良好な結果でしたが、ひし形は線対称な図形であり点対称な図形でもあることを理解すること、2つの三角形が合同であるために必要な辺や角の相等関係について理解することに課題がみられます。「関数」は、反比例について、グラフと表を関連付けて理解すること、一次関数 $y = a x + b$ について a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解することに課題が見られます。
数学 B (全 1 4 問)	全国平均より高い	「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての項目で、全国平均を上回りました。また、「図形」「関数」の問題で、発展的に考え条件を変えた場合について証明の一部を書き直すこと、付加された条件の下で新たな事柄を見だし証明することについては、全国・県との正答率を大きく上回りました。「資料の活用」では、与えられた情報から必要な情報を選択し的確に処理することは、国・県との正答率を大きく下回り課題が見られます。
理科 (全 2 7 問)	全国平均より高い	「物理的領域」「科学的領域」「生物学的領域」「地学的領域」のすべての項目で、全国平均を上回りました。どの領域も全国・県との正答率を上回りましたが、なかでも「物理的領域」の豆電球と LED を科学的に探究する、「物理・地学的領域」の緊急地震速報を科学的に探究する問題は、全国・県との正答率を大きく上回りました。しかし、「地学的領域」の、風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用すること、「科学的領域」の、ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘するなどの実験器具の利用の基礎的な知識・技能について課題が見られます。

質問紙調査

6 中学校質問紙調査

質問紙調査から、学校や家庭での生活実態について、主な結果を掲載しています。

※表の見方

□全国の欄に示している割合（％）は、「(いつも) している」「どちらかといえば(時々) している」と答えた児童（公立）の割合を示しています。

□飯綱町の欄に示している「高い+6%以上」「やや高い+3%」「ほぼ同じ+-3%以内」「やや低い-3%」「低い-6%以上」という言葉は、全国の割合に比べて、飯綱町がどうであるかを示しています。

1 起床・就寝・朝食

	内 容	全国（％）	飯綱町
①	毎日、同じくらいの時刻に起きている	90.3	やや高い
②	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	74.2	高い
③	朝食を毎日食べている	91.9	やや高い

2 家族・地域とのふれあい

	内 容	全国（％）	飯綱町
①	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている	76.0	高い
②	今住んでいる地域の行事に参加している	45.6	高い

3 家庭学習

	内 容	全国（％）	飯綱町
①	学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たり1時間以上勉強をする（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）	70.6	高い
②	学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たり30分以上読書をする（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	30.9	高い
③	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	52.1	高い
④	家で、学校の宿題をしている	91.6	ほぼ同じ
⑤	家で、学校の授業の予習・復習をしている	55.2	高い
⑥	家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している	71.3	高い

4 放課後、週末の過ごし方（複数回答問題 上位5位までを記載）

	内 容	全国(%)	飯綱町
放課後の過ごし方	① 学校の部活動に参加している	82.2	ほぼ同じ
	② 家でテレビや DVD を見たりゲームをしたり、インターネットをしている	77.3	低い
	③ 家で勉強や読書をしている	42.2	高い
	④ 家族と過ごしている	50.2	高い
	⑤ 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	42.1	低い
週末の過ごし方	① 家でテレビや DVD を見たりゲームをしたり、インターネットをしている	80.1	高い
	② 家族と過ごしている	61.3	高い
	③ 学校の部活動に参加している	69.4	ほぼ同じ
	④ 家で勉強や読書をしている	63.6	低い
	⑤ 友達と遊んでいる	56.0	低い

5 算数・理科に関する意識等

	内 容	全国(%)	飯綱町
①	数学の勉強は好きである	53.9	高い
②	数学の授業の内容は良く分かる	71.0	高い
③	数学の問題が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える	70.3	高い
④	数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える	69.2	高い
⑤	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	72.9	高い
⑥	理科の勉強は好きである	62.9	高い
⑦	理科の授業の内容は良く分かる	70.0	高い
⑧	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある	77.6	高い
⑨	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている	58.8	高い
⑩	理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている	41.4	高い
⑪	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う	22.2	高い
⑫	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	55.7	高い

6 授業・自尊意識・規範意識・将来に関する意識等

	内 容	全国(%)	飯綱町
①	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う	73.8	高い
②	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う	53.8	高い
③	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う	76.3	高い
④	新聞を週1回以上読んでいる	13.9	高い
⑤	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る	86.6	ほぼ同じ
⑥	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある	59.3	高い
⑦	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	38.7	高い
⑧	自分にはよいところがある	78.8	高い
⑨	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	82.2	高い
⑩	将来の夢や目標を持っている	72.4	高い
⑪	人の役に立つ人間になりたいと思う	94.9	高い
⑫	学校の決まりを守っている	95.1	高い
⑬	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	95.5	高い

7 調査の結果について

1 起床・就寝・朝食

基本的な生活習慣については、生徒のほとんどが良好な結果となっております。規則正しい生活習慣が身に付いているものと考えられます。

2 家族・地域とのふれあい

「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている」と「今住んでいる地域の行事に参加している」の問いに、全国平均を上回っており、家族や郷土愛に深い関係が築けていて、良好な結果ではないかと考えます。

3 家庭学習

「家で、学校の宿題をしている」は全国平均とほぼ同じ結果となっております。「学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をする」「学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たり30分以上読書をする」「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の予習・復習をしている」「家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している」の問いは、全国平均を大きく上回っています。自分に必要な内容を考えて取り組んだり、授業と繋がる家庭学習の向上が今回、全国平均を上回る結果になったと考えられます。

4 放課後・週末の過ごし方

「家でテレビやDVDを見たりゲームをしたり、インターネットをしている」が放課後・週末ともに上位に入っています。メディア等の放課後利用については全国平均より低いですが、週末の利用は全国平均より高い結果となっています。また、「家で勉強や読書をしている」の問いについては、放課後は全国平均に比べ高く、週末は全国平均より低い結果となっています。全国に比べて、週末は家でメディアをして過ごしている生徒が多いのではないかと思います。

小学校同様に、ゲームやインターネットの視聴時間と成績との影響における因果関係は不明確ですが、身体への影響も考えると家庭での使用ルールや学校での情報モラル教育が重要ではないかと考えます。

5 算数・理科に関する意識、授業・自尊意識・規範意識・将来に関する意識等

- ・「数学や理科の勉強は好き」「数学や理科の内容は良く分かる」生徒は全国より高い結果となっています。
- ・「問題が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」「授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」の問いは、全国平均を大きく上回っており、自分で考える習慣がついている良い結果ではないかと考えます。
- ・「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」や「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている」「数学・理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」の問いも、全国平均を上回っています。
- ・「1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」「自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う」「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」の問いに、全国平均を大きく上回っています。この結果から自分で考え、物事に取り組む姿勢や意欲の高さがうかがえます。また、話し合い活動により課題の解決に向けて主体的に取り組む生徒が多いこともうかがえます。
- ・「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の問いは全国平均を大きく上回り、地域への関心が高いことがうかがえます。
- ・「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」が「新聞を週1回以上読んでいる」より高い結果となっています。インターネット等を利用すると自分の欲しい情報がすぐ手に入る社会ですが、それにより情報の偏りもおこってきます。多角的に物事を考える機会を持つために、新聞に親しむことも大事ではないかと思います。
- ・「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の問いに、全国平均を上回っています。この結果から自尊意識に関わる質問では、物事に取り組む姿勢や意欲の高さがうかがえます。
- ・「自分にはよいところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の問いに、全国平均を上回り、多くの生徒が自己肯定感をもっていることがうかがえます。

今後も児童に寄り添いながら家庭でも学校でも指導することが重要ではないかと考えます。